

筑北村議会だより

第53号

平成26年9月19日発行

編集 筑北村議会だより編集委員
〒399-7601

長野県東筑摩郡筑北村坂北 2187 番地

電話 0263-66-2211

FAX 0263-66-3656

ホームページ

<http://www.vill.chikuhoku.lg.jp>

本議会の映像は
筑北村ホームページから
ご覧になれます。

議会6月定例会

一般質問

サッカー場建設について



横山 敬 議員

質問 新聞等で、サッカー場の予定地及び完成時期について、さも決定されたかのように報道されているが状況を尋ねる。

村長 サッカー場建設は、村内の既存施設の有効活用を図ることと経済効果が目的である。建設予定地は、本城野球場隣のサブグラウンドを活用する計画だが検討が必要である。村内でも

サッカーファンが急増しており、本城体育館でもフットサル大会が年間を通じて開催され、主催者の協力を得ながら碧館への宿泊や、ちくほつくるのパン、もえぎ亭のおやきの出張販売など、選手が購入することで売上に貢献している。サッカー場ができることで地域が連帯することにより、計り知れない経済効果があると思っている。サッカーができる多目的運動場としての建設にするか、JFLの認定を取れる規格で建設するかによって事業費が大きく変わる。財源も含め検討事項が多々あるが、慎重に判断し、順調に進めば完成時期は平成28年度を予定している。

質問 大体の内容は理解できたが、新聞報道等の前に、まず村民の皆様にはわかりやすく、内容等を精査して発表していただきたい。

水源周辺の整備について

質問 村長公約の中にもあった水源周辺の整備について、現在の整備状況及び今後の予定について尋ねる。



サッカー場予定地

村長 水源周辺の整備について、小範囲としては、井戸水源以外の水源の周囲に侵入防止柵を設置し、容易に立ち入ることができない状態である。広範囲では、旧坂北村において平成7年に長野県水環境保全条例の規定により、四阿屋水道水水源保全区域160ヘクタールの指定を受け現在に至っている。今後はまず栃平水源域、以降順次保全区の指定をしていく予定である。
産業課長 栃平水源域の周辺環境整備として森林については本

年度以降、重点的に整備を進めていきたい。

質問 今の説明で、一番大事なのは安心・安全な水ということであり、ぜひ計画どおり進めていただきたい。

村の観光スポットの整備と宣伝について



佐藤 文男 議員

質問 村には沢山の観光スポットがあるが、現状の整備状況と今後の予定について尋ねる。

産業課長 豊かな自然と歴史・文化に恵まれた本村には沢山の観光スポットがあり、多くの施設において、駐車場やトイレ、歩道、案内看板などの整備を行ってきた。今後必要等あれば、内容を精査して整備を進めたい。
質問 優先順位を付け確実な実行をお願いしたい。次に観光面の宣伝活動と今後の予定について伺う。
産業課長 村独自の宣伝活動は

パンフレットの作成、配布、ホームページへの情報掲載である。ちくほくのブログの閲覧者が多いので、よりよい情報発信を模索していく。また各種の機会を利用してPR活動を積極的に行う。



筑北村観光マップ

マレットゴルフ場の整備について

質問 村には4カ所のマレットゴルフ場があるが、冠着と本城以外はほとんど使われていない状況である。冠着マレットゴルフ場について、36ホールに増設、駐車場増設、道路への案内標識設置の要望が出ているが、村としての考えを尋ねる。

教育長 3月に関係者より請願書が出ており、現場調査など検討を進めてきた。大きな難題は、

用地が農業振興地域のため、農地転用で村が借用することができないことである。村が用地を購入するとしても、地権者の同意、財源措置、費用対効果の検証等、検討課題は山積で、現段階では非常に難しい状況である。駐車場については、対応策を考えている。案内看板については予算化に向けて検討する。

各種交通機関への要望について

質問 本村は高速道路や国道、JR等が通り、近隣市村にも比較的近く、ベッドタウンとしても有効なポジションである。現在の松本・明科発着の電車を聖高原駅まで変更するよう麻績村と共同でJRへ要望してもらいたいかどうか。

村長 現在の当地域の利用状況では厳しいと思われる。今後立ち上がる篠ノ井線松本地域活性化協議会（仮称）で、利用率向上の研究を行い、長野県JR連絡調整会議に要望していきたい。

質問 篠ノ井線の複線化の要望について、村の考えを尋ねる。

村長 長野県JR連絡調整会議に複線化要望を提出しているが、回答は貰えていない。今後前述の協議会の中での検討課題として、要望していきたい。

質問 長野自動車道、本城バスストップへのスマートインターチェンジの設置要望について、村の考えを尋ねる。

村長 各関係機関と意見交換した中では、安全設計上やトンネルが近いことなど、非常に難しい状況である。今後、他種・他方面から調査研究し、可能性を模索していく。

公有地の取得について



待井 安登 議員

質問 合併以降、公共事業における用地取得など、概要について尋ねる。

総務課長 道路等の土地取得は

26年3月末で342筆、15万9615㎡。寄付関係は107筆、14万1980㎡である。

質問 取得後の登記状況についてはどうか伺う。

総務課長 建設工事に伴う取得分の235筆中、218筆が登記済、17筆が相続できず未登記となっている。

質問 今後の登記事務についての対応はどうか伺う。

総務課長 過去の事業に伴う未登記箇所、分筆のできていない箇所など、件数も多いが、所有者と協議の上、効果的な解決計画を立て、未登記処理を行っていききたい。

質問 登記事務について、有資格者の定期委託など、今後の対応についてどうか伺う。

村長 現在1名で対応しているが、今後、臨時的に有資格者の委託など検討していきたい。

健康で元気に暮らすVOL.1

質問 村の国保一人当たり医療費が高額で横ばいの中、データ分析など、現状について尋ねる。

村長 健康で快適な生活を送る

ため病氣予防に取り組むことは重要であり、医療費の抑制にもつながると考えている。また、各常会の健康づくり推進員の協力を得て、積極的な検診受診を呼びかけ、健康づくりにつなげていきたいと考えている。

住民福祉課長 国保一人当たりの医療費は41万5026円で、

県平均を10万円ほど上回っている。現在25年度分について詳細分析を進めている。24年度は対前年比4万円ほど増加している。また、特定健診受診率は20年度が58・4%であったが、25年度は49・7%と下がっている。健康づくりの取り組みのため、健診結果の状況・対策を図表にしたチラシを作成した。今後、戸別訪問、指導に充分活用し、引き続き取り組んでいきたい。

質問 高齢化が進む中、今後の村の健康づくりについて尋ねる。

村長 総合計画により実施しているが、28年度計画終了後が重要と考えている。高齢者問題等も取り入れてやらなければならぬ。安心安全な住みよい筑北村をつくるために貢献していきたいと考えている。

筑北村の目指す 地域活性化の姿について



沖村 智 議員

質問 5年後、10年後の筑北村の姿について村がどのように考えているか伺う。

村長 村の将来像は筑北村の総合計画、建設計画の基本構想を基本としている。現在、後期総合計画でもこの方針に沿って計画しており、これらに掲げた内容を具現化していくことで村の活性化につながると考える。

質問 回答について数値的な指標があれば伺いたい。

村長 数値的指標の達成のため仕組みや環境整備が必要と考えている。例として、5年後の人口を5千人台で維持することや、18歳以下の若者人口割合も、合併当時の13・8%の水準まで引き上げたい。その他として通勤時間10分短縮、荒廃地面積5ヘクタール縮小、有害獣の駆除頭

数増加などである。

質問 地域活性化にも様々な取り組みがあり、重要なポイントは継続性と経済（お金）の活性化と考える。村として経済活性化について何か考えがあるか伺う。

村長 私の考えになるが、この地で収穫されたものを住民で味わい、好評なものを村外へ売っていく事が良いと思う。村内でじっくり研究していくことが一番である。

質問 昨日新聞でも報道されたが、村からウエルネス高校やサッカー場の提案がされた。年間の主要事業の計画書もいただいている中で今回新たな事業の提案をいただいた。現在検討している事業も含め、個々に事業を検討するのではなく、長期的な計画を立て、その上で早期に提案いただければ議会としても十分に検討できると考えるが回答願う。また、具体的には検討するための委員会などの設置を提案したいが考えを伺う。

村長 大きな事業を実施するにあたり、やはり事前に委員会組織を立ち上げ、住民の理解を得ながら計画していくことは当然

り前のことであると考えている。

筑北村の住民ニーズについて

質問 行政は村の中でも最も住民の意見が集まりやすい場所である。そこで、今一番多い住民ニーズ（要望）はどのようなもので、それに対し村はどう考えているのか尋ねる。

村長 一番は坂井地域のことであり、私自身も一番気になっている。今後は職員集落担当制を利用して、区等より要望があれば行政から出向いていくというスタイルに変えていきたい。そのような取組みから私の言っている「筑北村は一つ」が達成できると考えている。

ペットタウン構想、 定住促進の進め方について



太田 守彦 議員

質問 筑北村は定住促進について

てどのように取り組むのか伺う。

村長 若者定住のため家の新築は百万円の補助、改築等にも補助金を支給しており好評である。こうした補助は今後も継続したい。一方、坂井地区の杉ノ越団地は6区画が残っており、本城地区の竹之下団地は6年前に1区画が売却された以降売れていないのが現状である。住宅メーカーからは「交通網など立地条件は非常に良い」。日照時間が長いので太陽光発電住宅の提案も受けている。まずは両団地の売却を進めていく。

質問 平成25年度は消費税引上げ前の住宅駆け込み需要が起きた。松本市が1327棟、安曇野市が614棟に対し東筑摩郡は80棟。内訳は山形村が52、朝日村15、麻績村9、筑北村が4である。需要はやはり松本市や安曇野市に集中し、周辺部では北安曇郡や山形村へ流れる傾向にある。そういう中で、どういった人達をターゲットに考えておられるか伺う。

村長 公務員の皆さんに的を絞ったかどうかとの意見を受けている。転勤になっても松本・大

町・長野・上田、どこへも通える状況にある。鉄道についても、聖高原発着の復活などきちんと運動していく。

質問 空き家バンクの活用についてはどうか現状を伺う。

総務課長 平成24年度からスタートし、この2年間の物件登録数は37軒で、15軒が契約された。このうち11軒、23人が移住されてこられた。25年度の物件見学者は30名以上、空き家情報の提供待ち希望者は51名となっており、空き家の需要はますます増加していくと予想する。

質問 もっと多くの空き家があると感じている。空き家バンクへ登録されない理由を伺う。

総務課長 家財等が残っている、家の改修が必要、といった個別事情がある。空き家バンクへの助成策として家財処分費用の助成や中古住宅取得に関わる定住促進の助成があり、こうした制度の利用を呼びかけたい。

質問 村営住宅の空きが増加傾向にあるのではないか伺う。

建設課長 村営住宅は公営含めて現在104戸あり、うち12戸が空いている。増加傾向にある

ことは否めない。

質問 住宅が古いために敬遠されていないか、村営住宅の統廃合計画を含めて伺う。

建設課長 昭和45年築の住宅が一番古い。新しい住宅建設より今の空きを埋めていくことが先決であると考えている。



竹之下団地…空き

元気な村づくり実施計画



山崎 広道 議員

質問 元気な村づくりをどのような考えで実施されるのか、村の基本実施計画を尋ねる。

村長 総合計画後期基本計画に沿って、それぞれの項目の具現化実施のために予算計上した。

質問 総合計画で掲げる、自然に恵まれた「安心と活力」のあふれる住みよい村づくりのための、平成26年度の実施計画と、当初予算計上を尋ねる。

村長 国の補助等により新たに事業を実施することになったものの、計画が不十分で予算措置できず見送ったものもあるが、8割の事業を予算化した。実施計画は基本計画の施策に基づき、事業内容や実施時期を明らかにし、行財政運営の指針となるもので、計画期間は3年間であり、変動する社会情勢や財政状況に対応するため、毎年度見直しを行う。

質問 厳しい財政下にあるので、事業実施にあたっては補助金や地方債など、村に有利な条件で進めていただきたいが、村長の考えを尋ねる。

村長 実施計画に掲載された事業については事業の適性を考慮して、過疎債は住民が安全に安心して暮らすことのできる地域社会の実現につながる事業に、

合併特例債は合併後の村における一体性の速やかな確立、均衡ある発展を図るために行う公共的施設の整備事業や、総合的かつ効果的に推進するために行う公共的施設の統合整備事業に、それぞれ財源として計上している。当村にとつて、どちらも有利な起債であり、今後の財政状況をみながら借入れを行っていくことが必要との考えでいる。

質問 平成26年度の実施計画において、地方債の申請事務が行われた時期だが、その動向につき各事業の起債借入を尋ねる。

総務課長 平成26年度の過疎対策事業債は、一般会計・特別会計合わせて1億1千5万円。一般会計は、村道整備事業分5路線、7千300万、橋梁修繕事業分2橋、650万円、特別事業分（ソフト事業）3事業で1千480万円。特別会計では、簡易水道事業分250万円、集落排水事業分1千160万円、合併浄化槽事業分210万円。合併特例債は、6事業分、2億1360万円である。事業を行う際には有利な財源を確保し、今後の負担を考慮に入れて

事業を選択していく。



東条集落廃水処理施設改修

学校統合について



小山 正博 議員

質問 3月、5月の筑北・麻績両村の8者会談の内容と進捗を尋ねる。

村長 3月の内容は、両村学校等検討会議の開催経過の確認と両村長の意見交換だった。麻績村長は、保育園と小学校は当面

現状維持し、中学校は統合に向けて協議を深めたいということだった。筑北村としては、2年余り検討したが歩み寄りが出来ないで、新たに筑北村内で1中学校、1小学校、1保育園を提案した。

5月の内容は、前回の両村長の統合案について検討結果を報告した。麻績村長は住民へ、麻績村の上申書で説明してあるので、現時点で180度違う案は考えられないということであり、私は、筑北村は一つで方向性を出したいとした。意見交換で麻績村長から、麻績小と坂井小の統合を早急に進めるといふ提案が出され、筑北村としては真摯に受け止め検討することにした。本村からは提案した方向性案を麻績村で検討してもらうよう要請した。

質問 前回2回の議会でも、村長は坂井地域での懇談会を開くということだったが、今後の進め方はどうか。

村長 最初の年として、職員集落担当制を通じ、区長・常会長と相談して、私の方からいつでも出向きたいと考えている。

豪雪被害への

村独自の支援策について

質問 最終的な被害状況と、パイプハウス等農業施設への支援策を尋ねる。

産業課長 パイプハウスの被害棟数は49件で67棟、面積が4904㎡。被害農家へ説明会を開催し、内容的には最大9割の支援事業である。

質問 補助対象が非常に厳しく、売り上げが50万円以上か、耕作面積が3反歩以上か、10年間営農を継続することが必要とのこととで、2、3名が説明会の途中で帰られた。それを見て私は非常に残念に思った。村独自の支援策が出来ないか尋ねる。

村長 高齢者が農業をしている中で、生産意欲を無くした農家もかなりいる。村単独での見舞金を検討したが、筑北村独自で実施するわけにもいかず、東筑摩郡5村でも、財政が厳しく国の支援に頼るしかないというのが現状である。



山田 寿 議員

質問 筑北・麻績両村の学校統合を検討するのに長い年月が経過している。原因の一つには、議論の中味が行きつ戻りつしていると考えられる。最終的には議会の議決であるが、両村協議会での権限が明確でないが、この点について尋ねる。

教育長 両村で認識の差異があった。当村の見解は「諮問機関である」とし、麻績村では「最高議決機関である」との見解を持つていた。

質問 麻績村長は最近になって、坂井小と麻績小を統合したい旨の意思を表明した。筑北村長は、本村からの問題提起に相手側の応答が無い事で、筑北村の中で統合したい旨を表明しているが、坂井小、麻績小の再度の検討を願いたい。が所信を尋ねる。

教育長 中学校をいかに統合す

るかも視点に置きながら、麻績村からの提案については善処したい。

質問 平成27年4月には、本城小と坂北小との統合が決まっている。坂井小の動向について尋ねる。

教育長 8者会談の結論をもって教育委員会、議会へ協議を移していきたい。

学校教育の現状について

質問 文科省は土曜授業について指針を出しているが、本村の現状と、保護者からの要望があれば尋ねる。

教育長 にこにこ土曜楽行、わくわく教室などを開設している。これからは、より多くの地域の人々の協力を得て進めて参りたい。また、坂北庁舎を図書館に使う予定の中で、学習体制の新たな構築を考えていきたい。

質問 中学校での早朝練習(朝練)については長所・短所が問題視され、県教委が指針を出している。それへの対処について伺う。

教育次長 学力も体力も必要との前提で、県教委の指針を受け

て「部活動モデル」の策定を進めており、来年度から実施したいと考えている。

村財政について

質問 合併算定替の終了を控えて、交付税の額はいかほどになるかを伺う。

村長 平成32年度には予算額は30〜33億円になると見込む。物件費、維持補修費、扶助費の増加の見込まれる中で、国県の交付金、助成事業を積極的に導入し、財源の確保に努力したい。

質問 40億円ある合併特例債の使用について伺う。

村長 総合計画に沿って出来る限りの事を取り入れる。また、基金として残す方法もあるので、今後の検討課題としたい。

松くい虫について



鎌田 欣子 議員

質問 松くい虫によって枯れて伐採された松をどのように処理するのか尋ねる。

産業課長 被害の拡大等を抑制するために伐倒燻蒸処理をしている状況である。それを更に処分、あるいは片付けるといったことは考えていない。

質問 ビニールに覆われているがそのビニールは何時どのように処理するのか尋ねる。

産業課長 県の林務課へビニールの撤去を行っている自治体はあるか確認したところ、東信地区で以前あったが経費がかかりすぎるため現在は実施していないとのこと。当村でもビニールを片付ける予定はない。

質問 環境によい、自然に還るビニールを使用する予定はないか尋ねる。

産業課長 自然分解シートは値段が高い。また、破損しやすいため作業効率が悪く、安全対策でもかなり気を使わなくてはならない。あくまで個人林の対策であり、被害抑制のために現在処理をしているということ、それ以降については今のところ村として考えていない。

質問 地権者が片付けるのは大変難しいので、ぜひ村として考えて欲しい。次に、松の代わりに桜・ツツジ等を植えるなど、植栽を変更する考えはないか、また、松をチップ燃料として使っていく予定がないか尋ねる。

産業課長 村としては伐倒燻蒸処理に全力を注いでいる状況である。チップ燃料については、現在、塩尻市にバイオマス発電所の建設が予定されていたり、安曇野市の長峰山森林体験交流センター「天平の森」の風呂用の高性能ポイラーに使用している例があり、これから研究していく必要があると考えている。

村長 植栽の変更・松の後利用はこれから検討し、対策を考えていく必要がある。



松くい虫 破れたビニール

学校給食について

質問 学校・保育園の給食の材料、特に米・パン・野菜の地産地消について尋ねる。

教育次長 米については長野県産を76〜78%、うち筑北産を40〜50%使用している。野菜は3地域の直売所から購入しているが時期・量の問題があり、賄えないものは地域内の他店舗から購入している。パンは「ちくほつくる」のパンを給食委員会で検討していただいたが、県学校給食会の示す栄養基準・単価・食味の問題等があり、現在は長野県給食会委託の業者から購入している状況である。

質問 給食代は1食当たり小学校290円中学校320円だが、その無料化は考えているか伺う。

教育次長 無料化すると村全体で年間1980万ほどになる。食べる物は個人負担という考えの基、現在は考えていない。財政面等踏まえ慎重に検討したい。

提言 給食代の未収はひとりもいない状況の本村。都会ではあえて払わない家庭が多い昨今、「子育てに優しい」村づくりをお願いしたい。

議会第3回臨時会

7月10日第3回臨時会が開催されました。

- ・筑北村場外離着陸場設置及び管理に関する条例の制定
- ・筑北村一般会計補正予算及びとくら温泉施設特別会計補正予算

3件の議案が提出され、可決されました。



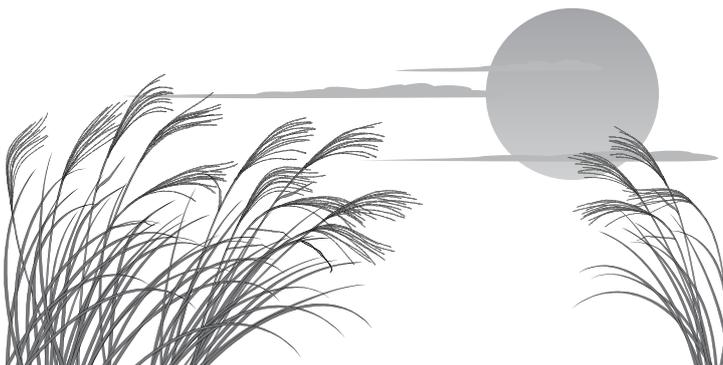
坂井地域に建設された場外離着陸場

議会第4回臨時会

7月24日第4回臨時会が開催されました。

- ・学校施設環境改善交付金事業屋内運動場3校（坂北・坂井・聖南）非構造部材耐震化工事請負契約について

議案が提出され、可決されました。



**木質バイオマス発電の
先進地視察**

太田 守彦 議員

8月19日より福島県会津地方へ、議員視察を行いました。

温暖化やCO2対策として、また原子力に変わるエネルギー源として、注目を集める自然エネルギーの一つがバイオマス発電です。

間伐材や松食い被害による伐倒材等は需要が低く、未利用材とも呼ばれます。これらを出から運び出し、大型破砕機がチップ状に細かく砕き、その燃焼熱で蒸気タービンを回して発電するというのが一連の発電サイクルです。因みに長野県では塩尻市の「信州Fパワープロジェクト」が27年4月の稼働を目指して建設中です。

視察先は林業会社「ノーリン」と発電会社「グリーン発電会津」の2事業所でした。

前者では2個所のチップ工場と広大な貯木場へ案内されました。「若者が地元へ戻ってきてくれ、ベテランから林業ノウハウ（伐採や運搬等）を引き継いでいる。会津の山を守りたい」という社長さんの言葉が非常に印象的でした。

後者では、この設備が会津地方の一万世帯へ電力供給している事、送電設備や1日千トン弱の冷却水の確保など立地条件の難しさなど説明を受けました。塩尻のFパワーは2万世帯であり、採算的にも一定規模が必要との事でした。

二日間の視察を通して、会津地方の人々が山や森林をとっても大切にされており、森林保全に対する意識の高さを痛感しました。杉を中心とした立派な森林が広がり、松食い被害の枯損木が一部残るものの計画的に伐採しておられるなど、まさに先進地だと感じました。

本村の豊かなアカマツ林を維持し、松茸などの特産品を通じて村の知名度向上を図る事、林業再生に向けた取り組みの参考となったほか、化石燃料から自然エネルギーへとシフトさせることは、地元の雇用創出や活性化に繋がることもわかり、時流に応じた視察ができたと思います。

9月2日筑北村において、地元国會議員・県議・松本地方事務所長・松本建設事務所長・各村長を来賓に招き、東筑摩郡村議会議員大会が開催されました。当日は、前山議会議長が大会長を務め、各村より提出された一議題を提案審議し、全提出議題が決議されました。今後東筑摩郡議長会では、決議されたそれぞれの案件について、国・県の関係機関へ要望していきます。



木質バイオマス発電所

**第65回東筑摩郡村議会
議員大会が開催される**

佐藤 文男 議員

9月2日筑北村において、地元国會議員・県議・松本地方事務所長・松本建設事務所長・各村長を来賓に招き、東筑摩郡村議会議員大会が開催されました。当日は、前山議会議長が大会長を務め、各村より提出された一議題を提案審議し、全提出議題が決議されました。今後東筑摩郡議長会では、決議されたそれぞれの案件について、国・県の関係機関へ要望していきます。



第65回東筑摩郡村議会議員大会

筑北村では、「国道403号矢越防災事業の早期完成について」を提案し、沖村智議員が、提案説明をしました。地域住民が切に求める安全で安心な生活ができる道路基盤の整備推進として、矢越防災事業の早期完成と、トンネルから安曇野市国道19号接続までの線形解消推進に關しての事業化を要望し、支援をお願いしました。

引きつづき（株）地元カンパニーの児玉社長より、講演があり、「故郷を離れた若者を活用して、故郷を活性化しよう」の演目で、有意義な話がありました。

筑北村選挙管理委員会から
お知らせ

長野県知事選挙の選挙結果

8月10日(日)に長野県知事
選挙の投票が行われました。

投票率 59・97%

(前回比△7・4%)

有権者数 4,352人

投票者数 2,610人

*期日前投票者数 822人

投票率 18・89%

開票結果

有効投票数 2,593票

無効投票数 17票

告示から当日まで17日間と長い選挙期間でしたが、大勢の皆様にご協力をいただき、無事終了することができましたことに感謝申し上げます。

今後の選挙予定

・10月19日

筑北村農業委員会委員一般選挙

・平成27年4月

長野県議会議員一般選挙

議 会 日 誌

7月

- 1日 松本広域臨時議会
- 10日 第3回臨時会
- 15日 麻績村筑北村学校組合臨時議会
- 16日 真田新田線改良期成同盟会
- 17日 松本糸魚川連絡道路長野県側ルート建設促進協議会総会
- 18日 議員研修会・143号期成同盟会
- 22日 国道403号道路整備促進期成同盟会総会
- 25日 大町麻績インター千曲線整備促進期成同盟会総会/県要望活動
- 28日 青木・麻績インター・新町間県道整備促進期成同盟会総会
- 28日 国道403号及び青木・麻績インター・新町間 県要望活動
- 30日 松本糸魚川連絡道路建設促進期成同盟会総会

8月

- 12日 土砂法説明
- 20日 松本・佐久地域高規格道路建設促進期成同盟会総会
- 22日 東筑摩郡村議会議長会第2回臨時総会
- 25日 国道403号道路整備期成同盟会中央要望